

鷺家口とニホンオオカミ

の集まる場所があるか、あるいはまた、狩猟を業とする者が少なくなかったことを示すものらしい。事実、鷺家口の北約12km、国道69号線に沿って、古来製革業で聞えた岩崎というところがある¹¹⁾。鷺家口に持ち出された山の獲物は、この岩崎に運んで売り捌かれたのではなかろうかと、筆者は想像した。この推測は大体当たっていたが、岩崎の一製革業者は、同地では昔から猟師とは直接取引はせず、仲買人の手を経て買い入れていた、と筆者に説明してくれた。ANDERSON にカモシカを売った吉田某が、猟師または仲買人か、あるいは製革業者であったかはわからない。しかし、鷺家口に来ている外国人が、獣類を買い入れるという噂を伝え聞いて、皮に売るよりは金になるだろうと、再び鷺家口へ運んで ANDERSON の手に渡したのだと思われる。岩崎には吉田姓の家が多い。

奈良県庁あたりで、獣類を手に入れたのなら、鷺家口だ位の示唆を受けた ANDERSON らは、ためらうことなく、一路同地を目差したと想像して間ちがいはないであろう。

1905年1月11日、奈良を発った ANDERSON らは、その日は桜井で一泊した。桜井は奈良平野の南の端に近い。当時、鉄道桜井線は奈良桜井間のみで、それより先は開通していない。彼らは桜井駅前大西町（今、本町通一丁目）の^{かいくわ}栞花楼に宿をとった。奥まった平屋建の離れ座敷を提供された。この離れは、今次の大戦後、隣家の火災に類焼し、現在は二階建に改築されている。ANDERSON 当時の面影は、この二階屋の前の庭に残っている老松によって偲ぶばかりである。明治初期の様相をもち伝えているこの旅館の古い母屋は、火難を免れたが、既に戦時中にその南半を桜井木材協同組合に譲渡し、全体は ANDERSON 当時よりはるかに小さい。

1月12日、桜井を後にした ANDERSON らは、その日は松山（今、大宇陀町のうち）に泊り、13日に鷺家口に着いた。松山からどの道をとったかはわからないが、恐らく山口を經、佐倉峠を越えて南下したのであろう。このあたりは、まだ山が深いわけではないけれども、多くの荷物を運ばねばならぬ一行の行路は必ずしも容易ではなかったにちがいない。乗合馬車の便さえ、